

ステーションモニター SM-5000 オペレーションマニュアル

ステーションモニター SM-5000 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

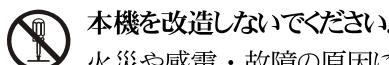
SM-5000 の機能を最大限に発揮させるために、ご使用前に必ずお読みください。

付属品リストは 8 ページに記載してあります。ご使用前にご確認ください。

お読みになった後は、このオペレーションマニュアルを大切に保管してください。

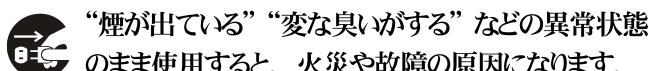
安全上のご注意

! 警告



本機を改造しないでください。

火災や感電・故障の原因になります。



“煙が出ている” “変な臭いがする”などの異常状態のまま使用すると、火災や故障の原因になります。

すぐに FTDX5000 の電源スイッチと主電源スイッチを切り、ケーブル類を外してください。

! 注意



本機を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。火災や故障の原因になります。



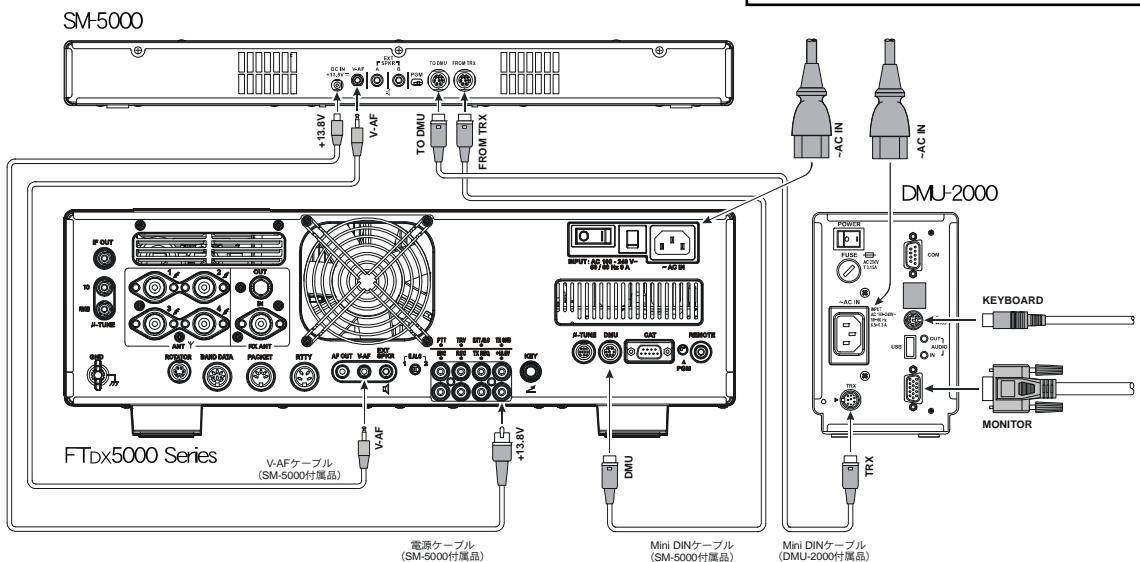
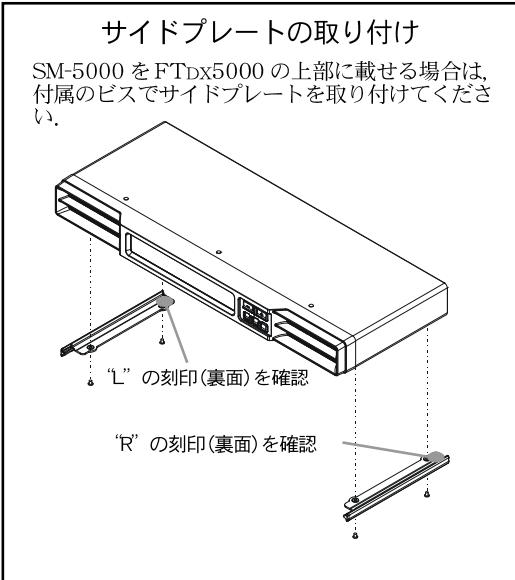
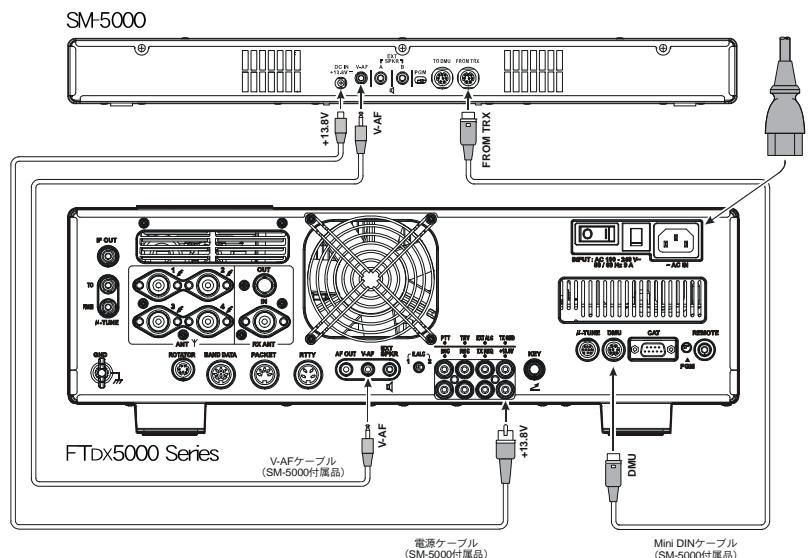
本機を落としたり、強い衝撃を与えないでください。ケガや故障の原因になります。



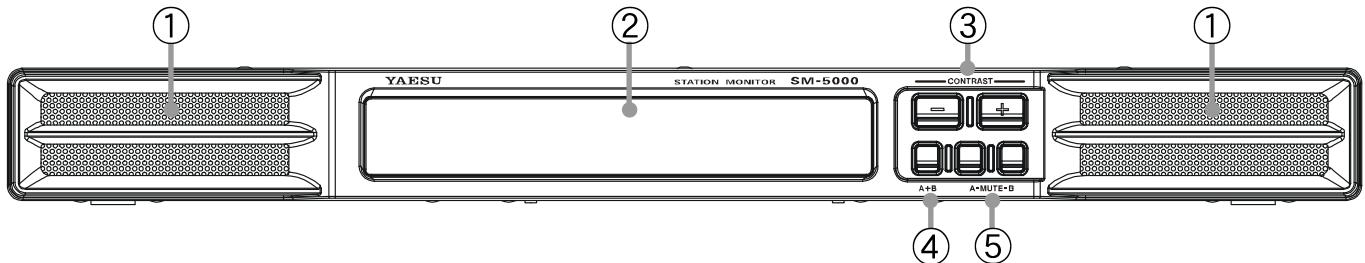
本機を直射日光の当たる場所や熱器具の付近に置かないでください。変形・変色などの原因になります。

接続

FTDX5000 の電源スイッチと主電源スイッチを切ってから接続してください。



前面の説明



① スピーカー

短波帯の受信に適した周波数特性をもつ楕円型スピーカーを左右に配置しており、VFO-AとVFO-Bの信号をそれぞれ独立したスピーカーから聞くことができます。

② ディスプレイ

VFO-Aのバンド内の状況をモニターするためのスペクトラムスコープを表示します。

③ CONTRAST

【+】スイッチと【-】スイッチを同時に押すごとに「ディスプレイのコントラスト調整」または「SOUND QUALITY機能/SP REVERSE機能」の設定モードになります。

◎ディスプレイのコントラスト調整 (☞p.7)

【+】スイッチを押すと表示が濃くなります。
【-】スイッチを押すと表示が薄くなります。

◎SOUND QUALITY機能 (☞p.6)

【-】スイッチを押すごとにSOUND QUALITY機能がCLEAR →MILD→SOFT→LOUDNESS→CLEARと切り替わります。

◎SP REVERSE機能 (☞p.7)

【+】スイッチを押すごとにSP REVERSE機能のON/OFFを切り替えます。

④ A+B

デュアル受信時に使用するスイッチです。

【A+B】スイッチが手前に出ている状態では左側からVFO-Aの受信音、右側からはVFO-Bの受信音が聞こえます。

デュアル受信時以外は両方のスピーカーから聞こえます。

【A+B】スイッチを押し込むと左側の受信音と右側の受信音をミックスして左右から聞こえます。

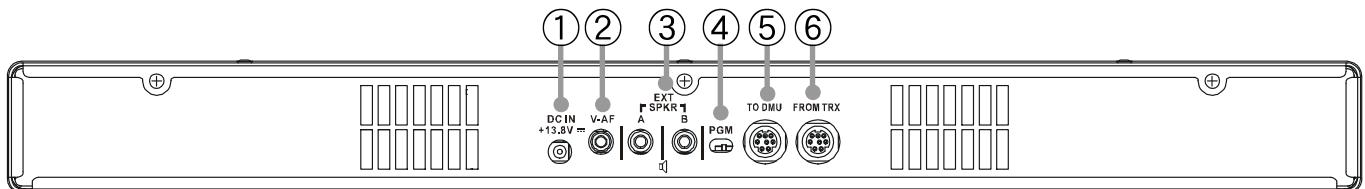
アドバイス FTDX5000 Series のメニュー モード「108 ROUT HEADPHN」を“SEPARATE”(初期値)の設定にしてください。

⑤ MUTE A/B

【A】スイッチを押し込むと左側のスピーカー音をミュートします。

【B】スイッチを押し込むと右側のスピーカー音をミュートします。

背面の説明



① DC IN +13.8V

FTDX5000 Series の背面にある +13.8V 端子と接続する端子です。

② V-AF

FTDX5000 Series の背面にある V-AF 端子と接続する端子です。

③ EXT SPKR A/B

外部スピーカーを接続することができる端子です。外部スピーカーを“A”に接続すると、SM-5000 の左側スピーカーの動作を停止し、“A”に接続した外部スピーカーから受信音を出力します。

外部スピーカーを“B”に接続すると、SM-5000 の右側スピーカーの動作を停止し、“B”に接続した外部スピーカーから受信音を出力します。

④ PGM

ファームウェアをアップデートするときのスイッチです。

アップデートの仕方は WDXC のホームページを参照してください。

⑤ TO DMU

DMU-2000 (オプション) を接続する場合は、DMU-2000 の背面にある TRX 端子と接続する端子です。

⑥ FROM TRX

FTDX5000 Series の背面にある DMU 端子と接続する端子です。

スペクトラムスコープの使い方

スペクトラムスコープ機能とは

VFO-A のバンド内の状況をモニターするために便利なスペクトラムスコープを表示します。

VFO の周波数が常に画面の中心にあり自局の周りをモニターするために便利なCTR (センター) モード、バンド内をモニターするために便利な画面の左端の周波数が固定されたFIX (固定) モード、高速にモニターすることができるLBWS 機能など実際の運用を考慮した多機能スコープです。

アドバイス ○ スペクトラムスコープの縦軸は、1 目盛り約 10dB になります。

○ 送信時は自局の送信波形を表示します。

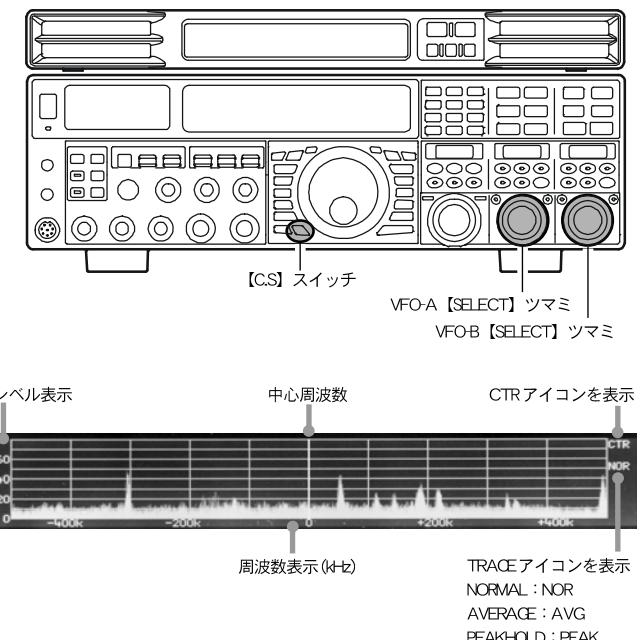
自局の送信波形をモニターする場合は、SPAN の設定を CTR モードで 2500kHz、FIX モードで 1000kHz または 2500kHz に設定したときのみ送信波形を表示しません。

CTR(センター)モードの使い方

ディスプレイの中心に太い実線で表示されている部分が中心周波数になります。

さらに画面全体のスパン(帯域幅)を変えずに画面の一部だけを高速でスイープすることができる LBWS (Limited Band Width Sweep) 機能を使用することができます。

1. FTdx5000 の【C.S】スイッチを約 2 秒間押すと、SCOPE メニュー モードが表示されます。
2. VFO-A【SELECT】ツマミをまわして、MODE を選択します。
3. VFO-B【SELECT】ツマミをまわして、CENTERを選択します。
ディスプレイの中心に太い実線で表示されている部分が VFO-A の中心周波数として表示されます。
4. VFO-A【SELECT】ツマミをまわして、CTR SPAN (帯域幅)を選択します。
5. VFO-B【SELECT】ツマミをまわして、見やすいSPAN に変更します。
左右にまわすと下記のように切り替わります。
25kHz ⇄ 50kHz ⇄ 100kHz ⇄ 250kHz ⇄
500kHz ⇄ 1000kHz ⇄ 2500kHz ⇄ 25kHz へ戻る
6. VFO-A【SELECT】ツマミをまわして、ATT (アッテネータ) を選択します。
7. VFO-B【SELECT】ツマミをまわして、アンテナの状態やコンディションに応じて ATT 値を変更します。
左右にまわすと下記のように切り替わります。
0dB ⇄ 10dB ⇄ 20dB
8. FTdx5000 の【C.S】スイッチを短く押すと、設定内容を保存し SCOPE メニュー モードを終了します。



トレースモードを変える

1. FTdx5000 の【C.S】スイッチを約 2 秒間押すと、SCOPE メニュー モードが表示されます。
2. VFO-A【SELECT】ツマミをまわして、TRACE (トレース) を選択します。
3. VFO-B【SELECT】ツマミをまわして、TRACE を設定します。
左右にまわすと下記のように切り替わります。
NORMAL ⇄ AVERAGE ⇄ PEAKHOLD
4. FTdx5000 の【C.S】スイッチを短く押すと、設定内容を保存し SCOPE メニュー モードを終了します。

注意

コントラストを高めに設定しすぎると、グレーの箇所が分かりにくくなりますので、グレーとホワイトの差が分かるように調整してください。

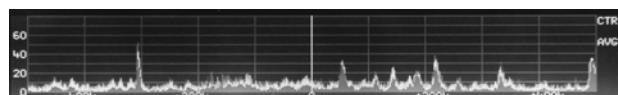
● NORMAL

受信レベルを表示します。通常はこのモードで使用します。



● AVERAGE

受信レベルとアベレージレベルを表示します。



● PEAKHOLD

ピークレベルを保持した状態で受信レベルを表示します。

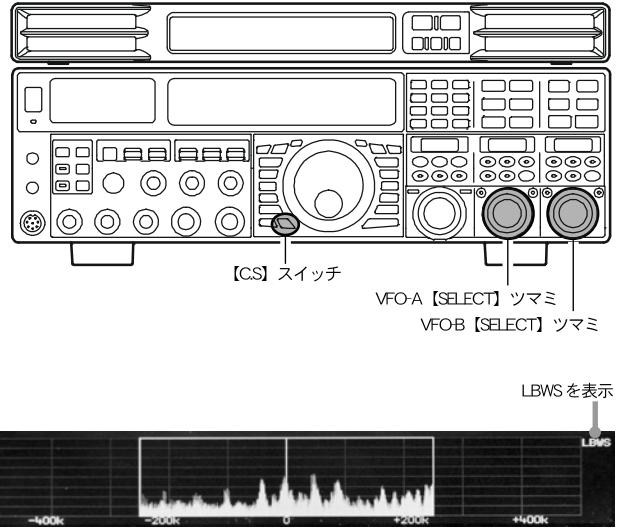


スペクトラムスコープの使い方 (つづき)

LBWS機能の使い方

LBWSは、画面全体のスパン(帯域幅)を変えずに画面の一部だけを高速でスイープすることができる機能です。スイープする帯域を狭くするほどスピードが速くなり信号を正確にモニターすることが可能になります。帯域幅は画面全体の50%, 30%, 10%に設定することができ、スイープの速度は、50%で約2倍、30%で約3倍、10%で約10倍となります。

1. FTDX5000の【C.S】スイッチを約2秒間押すと、SCOPEメニュー モードが表示されます。
2. VFO-A【SELECT】ツマミをまわして、MODEを選択します。
3. VFO-B【SELECT】ツマミをまわして、LBWSを選択します。
左右にまわすと下記のように切り替わります。
CENTER ⇄ FIX ⇄
LBWS-1(50%) ⇄ LBWS-2(30%) ⇄ LBWS-3(10%)
4. VFO-A【SELECT】ツマミをまわして、CTR SPAN(帯域幅)を選択します。
5. VFO-B【SELECT】ツマミをまわして、見やすいSPANに変更します。
左右にまわすと下記のように切り替わります。
25kHz ⇄ 50kHz ⇄ 100kHz ⇄ 250kHz ⇄
500kHz ⇄ 1000kHz ⇄ 2500kHz ⇄ 25kHzへ戻る
6. VFO-A【SELECT】ツマミをまわして、ATT(アッテネータ)を選択します。
7. VFO-B【SELECT】ツマミをまわして、アンテナの状態やコンディションに応じてATT値を変更します。
左右にまわすと下記のように切り替わります。
0dB ⇄ 10dB ⇄ 20dB
8. FTDX5000の【C.S】スイッチを短く押すと、設定内容を保存しSCOPEメニュー モードを終了します。

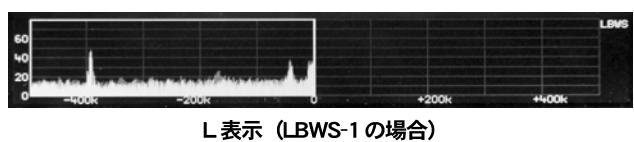


例：表示はLBWS-1

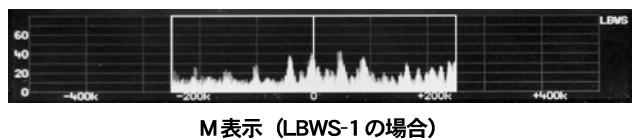
注意 LBWS表示中は、トレースモードのピークホールドやアベレージに変更することはできません。

モニターする位置を設定する

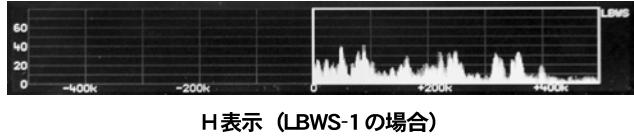
1. FTDX5000の【C.S】スイッチを約2秒間押すと、SCOPEメニュー モードが表示されます。
2. VFO-A【SELECT】ツマミをまわして、LBWSを選択します。
3. VFO-B【SELECT】ツマミをまわして、モニターする位置(L/M/H)を設定します。
左右にまわすと下記のように切り替わります。
L ⇄ M ⇄ H
● L・・・センターから下端の周波数をモニターします。
● M・・・センターを中心にモニターします。
● H・・・センターから上端へ周波数をモニターします。
4. FTDX5000の【C.S】スイッチを短く押すと、設定内容を保存しSCOPEメニュー モードを終了します。



L表示 (LBWS-1の場合)



M表示 (LBWS-1の場合)



H表示 (LBWS-1の場合)

スペクトラムスコープの使い方（つづき）

FIX(固定)モードの使い方

アマチュア無線で使用するバンド内をモニターするために便利な機能です。

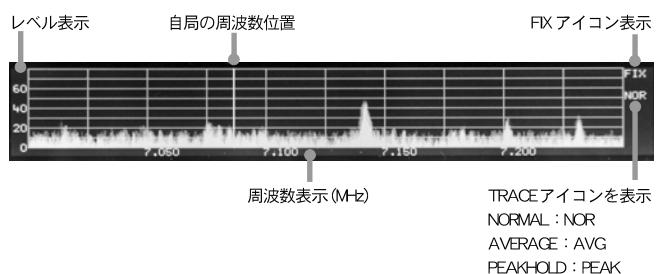
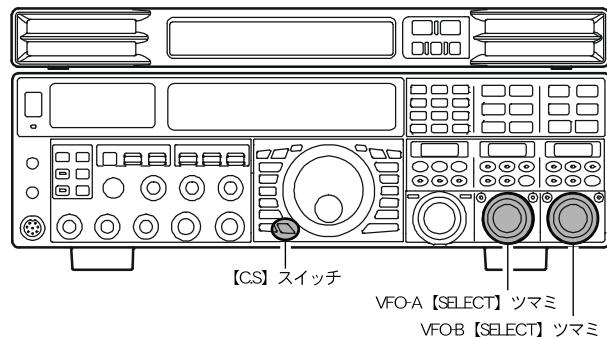
画面左端のスタートポイントはFTDX5000のメニュー mode（「131 SCP 1.8 FIX」～「141 SCP 50.0 FIX」）で設定することができます。

画面のスパン（帯域幅）を変えてもスタートの周波数は変わりません。画面を見ながら気になる波形にVFOの周波数を移動させることができます。

1. **FTDX5000の【C.S】スイッチを約2秒間押すと、SCOPEメニュー modeが表示されます。**
2. **VFO-A【SELECT】ツマミをまわして、MODEを選択します。**
3. **VFO-B【SELECT】ツマミをまわして、FIXを選択します。**
自局の周波数の位置は画面上に太い実線で表示されます。
4. **VFO-A【SELECT】ツマミをまわして、FIX SPAN(帯域幅)を選択します。**
5. **VFO-B【SELECT】ツマミをまわして、見やすいSPANに変更します。**
左右にまわすと下記のように切り替わります。
25kHz ⇄ 50kHz ⇄ 100kHz ⇄ 250kHz ⇄ 500kHz ⇄ 1000kHz ⇄ 2500kHz ⇄ 25kHzへ戻る
6. **VFO-A【SELECT】ツマミをまわして、ATT(アッテネータ)を選択します。**
7. **VFO-B【SELECT】ツマミをまわして、アンテナの状態やコンディションに応じてATT値を変更します。**
左右にまわすと下記のように切り替わります。
0dB ⇄ 10dB ⇄ 20dB
8. **FTDX5000の【C.S】スイッチを短く押すと、設定内容を保存しSCOPEメニュー modeを終了します。**

アドバイス

- メインダイアルツマミをまわすと、受信周波数にあわせての位置が移動します。
受信周波数が画面の範囲外のときは、自局の位置を画面下部の左右に“<<<”“>>>”で表示されます。
- DUM-2000を接続している場合、3ページのトレースモード（“AVERAGE”と“PEAKHOLD”）を設定しているときは、DUM-2000の[F6(REFRESH)]を押すことにより、現在の表示を中断させて再表示することができます。



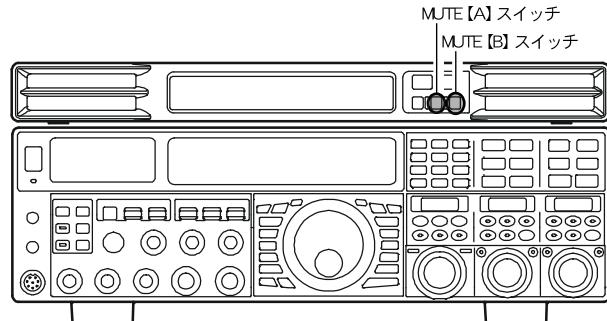
デュアル受信時に便利な機能

スピーカー音をミュートする (MUTE A/B)

デュアル受信時に A または B の受信音を集中して聴きたいときに、ワンタッチで切り替えることができます。

【A】スイッチを押し込むと左側のスピーカー音をミュートします。

【B】スイッチを押し込むと右側のスピーカー音をミュートします。



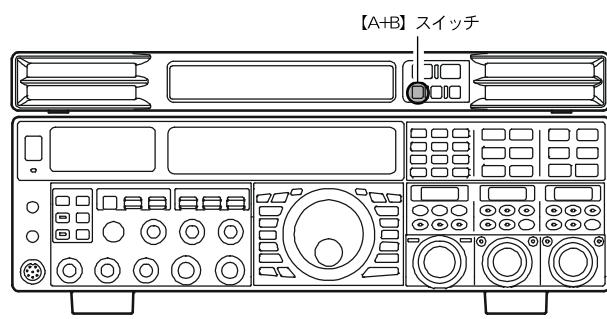
左側のスピーカー音と右側のスピーカー音をミックスする (A+B)

デュアル受信時に左側のスピーカー音と右側のスピーカー音をミックスして聴くことができます。

【A+B】スイッチが手前に出ている状態では左側からVFO-A の受信音、右側からはVFO-B の受信音が聞こえます。

【A+B】スイッチが押し込むと左側の受信音と右側の受信音をミックスして左右から聞こえます。

アドバイス FTDX5000 Series のメニュー mode 「108 ROUT HEADPHN」を “SEPARATE” (初期値) の設定にしてください。



音質に関係する設定

音質を設定する (SOUND QUALITY)

運用モードに合った好みの音質を設定することができます。

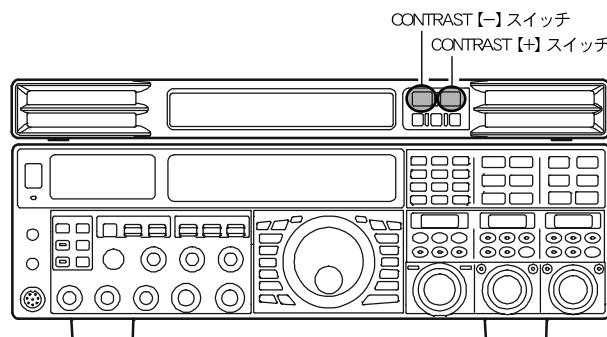
1. CONTRAST の【+】スイッチと【-】スイッチを同時に押して、SOUND 設定ウインドウを選択します。

アドバイス CONTRAST の【+】スイッチと【-】スイッチを同時に押すごとに「ディスプレイのコントラスト調整」 ⇔ 「SOUND QUALITY 機能/SP REVERSE 機能」の設定モードになります。

2. CONTRAST の【-】スイッチを押して音質を設定します。

押すごとに、
CLEAR → MILD → SOFT → LOUDNESS → (CLEAR に戻る)
と設定することができます。

約5秒間放置するとSOUND 設定ウインドウが消えて設定を終了します。



CLEAR	了解度の高い高音まで伸びたクリアな音質になります。
MILD	クリアな音質を保ちながら、耳障りな高域を減衰させます。
SOFT	低音を強調するとともに耳障りな高域を減衰させます。
LOUDNESS	高音まで伸びた帯域の広い音質を保ちながら、低域を強調した豊かな音質になります。

音質に関する設定 (つづき)

位相反転機能を使用する (SP REVERSE)

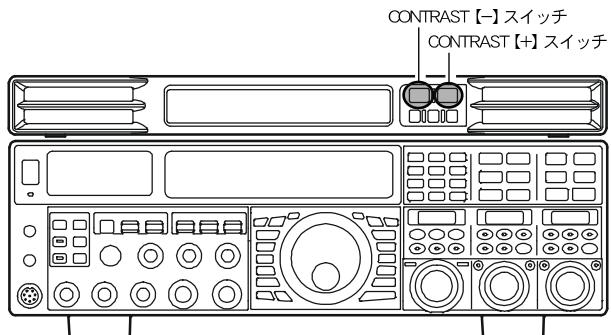
混信の中で微弱信号を位相反転機能を設定して聴くと音像が広がります。

1. CONTRAST の【+】スイッチと【-】スイッチを同時に押して、SOUND 設定ウインドウを選択します。

アドバイス CONTRAST の【+】スイッチと【-】スイッチを同時に押すごとに「ディスプレイのコントラスト調整」⇒「SOUND QUALITY 機能/SP REVERSE 機能」の設定モードになります。

2. CONTRAST の【+】スイッチを押して位相反転を設定します。

押すごとに、OFF → ON → (OFF に戻る)
と設定することができます。
約5秒間放置すると SOUND 設定ウインドウが消えて設定を終了します。



ディスプレイに関する設定

コントラストを設定する (CONTRAST)

ディスプレイのコントラストを見やすいように調整します。

1. CONTRAST の【+】スイッチと【-】スイッチを同時に押して、CONTRAST 設定ウインドウを選択します。

アドバイス CONTRAST の【+】スイッチと【-】スイッチを同時に押すごとに「ディスプレイのコントラスト調整」⇒「SOUND QUALITY 機能/SP REVERSE 機能」の設定モードになります。

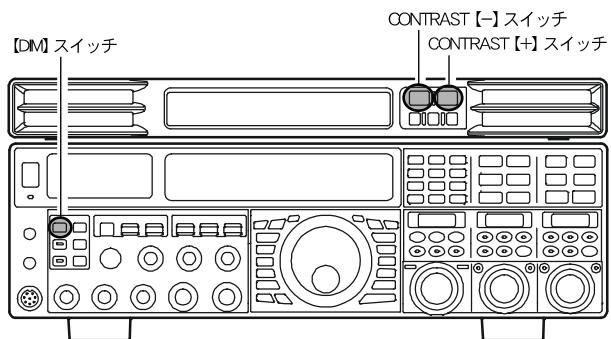
2. 【-】スイッチと【+】スイッチでディスプレイのコントラストを調整します。

CONTRAST 調整ウインドウが開き、パラメーター (数字) とバーグラフが表示されます。

【-】スイッチ・・・ディスプレイの表示が薄くなります。

【+】スイッチ・・・ディスプレイの表示が濃くなります。

約5秒間放置すると CONTRAST 調整ウインドウが消えて設定を終了します。



ディスプレイの照度を調整する

SM-5000 のディスプレイと FTDX5000 のアナログメーター、周波数ディスプレイ、SUB ディスプレイの明るさを同時に切り替えることができます。

FTDX5000 の【DIM】スイッチを押します。

アドバイス

FTDX5000 のメニュー モード「011 DISP DIM ELCD」により、
【DIM】スイッチを“ON”にしたときの、ディスプレイ (SM-5000)
の照度を設定することができます。

ディスプレイの表示を OFF にする

スペクトラムスコープを表示しているディスプレイを OFF にすることができます。

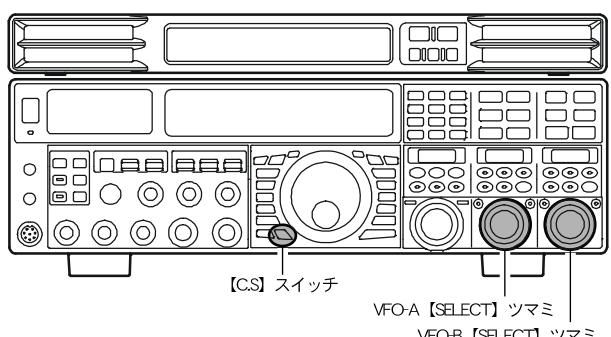
1. FTDX5000 の【C.S】スイッチを約2秒間押すと、SCOPE メニュー モードが表示されます。

2. VFO-A 【SELECT】ツマミをまわして、DISPLAY を選択します。

3. VFO-B 【SELECT】ツマミをまわして、OFF を選択します。

SM-5000 のディスプレイ表示が消えます。

4. FTDX5000 の【C.S】スイッチを短く押すと、設定内容を保存し SCOPE メニュー モードを終了します。



SM-5000 のオールリセット

SP REVERSE 機能を “OFF”, SOUND QUALITY 機能を “CLEAR” にし、コントラストを初期値に戻すことができます。

CONTRAST の 【+】スイッチと 【-】スイッチを同時に押しながら、FTDX5000 の電源スイッチを押します。

付属品

ご使用になる前に付属品の確認をしてください。

MiniDIN ケーブル (8pin - 8pin) 1 本
V-AF ケーブル (3.5 φ 3P - 3.5 φ 3P) 1 本
電源ケーブル (RCA - DC) 1 本
サイドプレート 2 本
ビス (サイドプレート取付用) 4 個

定 格

スピーカー口径 : 65 × 25 (mm) (2 個左右に配置)

低周波出力 : 1.5W+1.5W (@ 8 Ω)

外形寸法 : W462 × H45 × D181 (mm)

重 量 : 約 2.5 kg

本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、東京サービスセンターにお願いいたします。

東京サービスセンター

〒144-0034 東京都大田区西糀谷 3-41-3 長藤ビル 2F

電話 : 03-6423-8711

©2013 八重洲無線株式会社
無断転載・複写を禁ず

八重洲無線株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル

